

第 25 回 新木地区「地域会議」議事録

令和 6 年 2 月 25 日（日）

- 開催日時： 令和 6 年 2 月 25 日(日) 10:00～12:00
- 開催場所： 新木近隣センター 多目的ホール
- 出席者： (紙面の都合により割愛)
- 議題： 安全・安心・住みよいまちづくりに向けて

■議事

1. 開会挨拶

<地域会議事務局長>

おはようございます。今日は少し寒いですが、忙しい中お集まりいただきありがとうございます。ただいまより第 25 回地域会議を開催したいと思います。本日は星野市長にお越しいただいており、地域会議の意義についてお話しできたいと思います。

2. 我孫子市長より

みなさんおはようございます。本日はお寒い中にもかかわらず、地域会議が盛んに行われていることを喜ばしく思います。現在、我孫子市には 10 のまちづくり協議会があり、そのうち 5 つの地域で地域会議が実施されています。各地域では、高齢化、防犯、防災、ごみ処理など、行政と住民が協力して課題解決に取り組むための話し合いが行われています。

先般、能登半島で大きな地震がありました。千葉県でも職員を派遣して支援を継続しています。我孫子市の職員数は 200 人で、職種によっては人手が不足していますが、チームを組んで支援に努めています。東日本震災の際も避難所の運営支援など協力してきました。市民の皆様には電話の個別対応が負担になっていることをご理解いただき、体調には留意していただきたいと思います。

昨年 5 月以降、コロナ感染は減少し、イベントも開催できる状況に戻りつつあります。ただし、現在はインフルエンザが流行しており、学校では学級閉鎖も発生しています。皆様には体調管理に留意いただき、コロナワクチンの無料接種は 3 月いっぱいですので、ご注意ください。

我孫子の学校は駅伝や高校野球で素晴らしい成績を収めています。寄付金控除を活用しながら、頑張っしてほしいと思います。

我孫子の町は明治時代に湖北地区で 6 つの村が合併して湖北村が成立し、湖北小が設立されました。湖北小は現在 150 周年を迎えています。もともとは我孫子小学校の分校として設立されましたが、後に中峠小学校として独立し、現在は湖北地区には湖北小、西小、東小、新木小の 4 つの小学校が存在しています。

東日本大震災の時には、我孫子市の地域でも被害がありました。被害の大部分は布佐の戦後の埋め立て地が液状化して住めなくなったことによるものでした。この時、被災者以外の自治会も協力し、地域全体での支援が行われました。竹内神社の祭りなどを通してコミュニティが形成され、共助の精神が示されました。高齢化が進む中、地元の子供たちを大切にしていく必要があります。

昨年の出生数は 700 人を下回り、亡くなった方は 1500 人でした。転入者は多いものの、転入者数は 800 人に届いていませんでした。このため、地域の活性化と地域への愛着を促すために、自治会やまちづくり協議会が様々なイベントを行っています。特に、新木まち協は子供たちとのイベントを通じて活力を生み出しています。

中峠地区において消防署の建設が始まり、4 つの消防署では救急車の予備車 2 台を配置することになりました。年間の出動回数は 7500 回を超えており、その要因の一つは高齢化によるものです。特に小児救急では 9 割が軽症であり、若いお母さんが子供が少しでも症状を示すと 119 番に通報する傾向があります。また 4 月から医師の働き方改革が始まります。取手協同病院では、週 7 日の営業が週 5 日になる可能性があり、地域の理解と協力が必要です。特に小児科では、軽症の場合にも救急搬送が行われることがあり、医師不足の課題もあります。開業医の増加に向けて医師会と協力して対策を模索しています。

一方、地域交通の面では、成田線沿線のバスに関する検討が行われています。コロナ禍によるリモートワークや需要の変化に対応し、一部のバス路線の廃止も検討されています。湖北、新木、布佐地区では、浴びバスと同様に補助金を検討して継続を模索しています。新木地区の人口は 1 万人であり、高齢化率も地域によって異なります。地域の統合と調整のために地域会議が継続されることが望まれています。

<市長への質疑応答>

・ゴミ袋の有料化はどうなっていくか？

→当面は、しません。（千葉県内市町村では我孫子だけ）

→袋を印刷して買ってもらうことで収入上がるか？印刷代が高く市民に負担してもらう意味があるか？

今も普通にごみ袋を売られており十分。さらに金をかける必要はないだろう。

→資源ごみについては奨励金をもらえるという制度はリサイクルから逆行する可能性がある。

奨励金のためにゴミを出す（増やすこと）を奨励している自治会もある。

なので奨励金は頭打ちにすることを考えている。

・民生員の活動のために 65 歳以上の高齢者のデータを提供してもらっているが、データが古く間違いがある。

→個人情報制限で非常に煩雑になり、法務局に聞きながら対応しているがなかなか難しいところもある。

職員と相談しながら協力していきたい。

3. ビデオ放映

- ・災害等についてのビデオを放映

4. グループ討議

- ・「新木防災」について、自然災害の情報・知識の共有化
 - 自助 自分、家族を守る環境づくり
 - 共助 隣近所との、コミュニケーション

【1 班】

- 災害時の避難の緊急放送が聞き取りにくい。
 - 地域に連絡担当を決めて近所の高齢者に知らせる。
 - 高齢者にとってスマホなどの機器操作が不慣れ。
 - 避難所の場所の周知が不足。普段から全体で分かり合うことが必要。
 - 新木防災のリーフレットが非常に役に立っています。第 5 号を希望。
 - 創価学会の会館を避難所にしてもらいたい。地域、市に働きかけ。
 - 台風 19 号の時、夜中の避難情報で戸惑った。何処に避難したら良いか分からない。
- 避難情報の周知を誰が知らせるか、仕組み作りはどうする？
 - 避難訓練の実施、高齢者の移動の方法
 - 自助、共助、公助

【2班】

- 表札がないと、共助の大事なポイントであるコミュニケーションが取りづらい。
- （学校では）生徒に自助の大切さを教えている。
- 現実起こりえる災害を想定して備えている。
- 非常時の体制を決めておくと同時に、マニュアル化しておく事が大事である。
- 家族でのお互いに早い情報の収集とその連絡方法を大事にしている。
- 非常食のローリングをしている。
- 利根川堤防から越水すると17分で自宅に来る。早く情報を得る事がポイントである。
- 見守り活動の援助体制は整えてある。
- 地震は突然やってくるが、大雨、台風等は事前に準備ができる。
- 災害時は意識しているが、時間経過とともに意識が薄れる事が問題だ。
- 災害弱者の把握と手助けは、先ずは出来る事から始める。
- 地震予知情報は色々あるが、解らない事が多過ぎる。発生確率に関係なく、何時発生してもおかしくないと思った方がいい。
- 昭和39年以前に建てられた住宅の耐震が問題である。
- 非常食の備蓄は準備している。
- 家族が近くに住んでいるので、心強い。
- 共助と言うが、普段からあまり親しくないのでは、『助けて下さい』と声を上げづらいのではないか。日常生活でのコミュニケーションが大事と思う。
- 普段の電話でのやり取りでは、電話番号を意識していないので、いざという時の為に電話番号をメモしておく事が大事と思う。

【3班】

自助について

- 継続する事
 - 水を外に保管する事
 - 持ち運びのリュックサックを準備する事
 - （自分が高齢なので）近所の人に救助をお願いしている
 - 家の中の戸は1カ所を開けておく。笛も用意
 - 1階で寝るのはやめよう、頑丈な建物に避難する事
 - 自治会から土砂崩れの個所を地主さんに知らせる
 - 冷凍庫を保存するため設置する
 - 準備している物がどこにあるか分からない
 - 妻が病気で、いざという時にどうするかがわからない。決まっていないので参加しました
 - 生活協同組合に参加しているので、そこからリストされているもの揃えている。
- 12世帯位の単位の集まりが非常に良いと思う

【4班】

- 新聞に3日間の水、食料を用意すると良いと聞いたが、家にいられないと使えないこともあるらしい。準備すれば安心というわけではない。独居老人だが、準備するだけでは安心できない。チェックをしているのか皆さんに聞いてみたい。
 - 特に用意していない。3.11の時に箱買いしたが、それがなくなってから買わなくなった。食料は買いだめ含めてある。ガスボンベもある。
 - 実家で家族と暮らしているが、消費量が多いのでコストコなどで箱買いする。非常食はあるが更新していないのでちょっと心配。
 - 能登震災で、家族が今までの2-3倍くらい準備するようになった。明かりも2つしかなかったが、追加した。
 - ペットボトルで2ケース（2人）。食料は買いだめしているくらい。防災グッズは手袋、紙皿とか、玄関のリュックに入れている。
 - 二階で寝ている方は、枕元に靴を用意していると良いと聞く。
- 去年から今年にかけて、近所で立て続けに3人亡くなった。それぞれ二人家族だったので独居になってしまう。いざ災害にあったときに共助が必要になる。
- 個人情報保護の観点から、近所の状況把握は非常に難しい。共助も言ってもらわないと難しい。
- 隣が男性の独居、さらに2件となりが老夫婦だったが、主人が亡くなって独居になった。
- 二年前の2月、2軒先で70台の独居老人が住んでいたのだが、新聞がたまっていたので新聞配達員から市へ連絡が入り、民生員が見に来た。民生員の方も困って私のところに来た。呼んでも出てこない。都内の妹さんに電話したがしばらく話してないのでわからない。病院聞いても分からない。親戚に来てもらって鍵を開けたら亡くなっていた。心不全だったらしい。新聞も見守りと同じ働きをしてくれていると思った。
- 支援学校では避難訓練は行っているが、特に共助についての取り組みは現在していない。本来の自分の通う学校と交流をしてもらっている。
- 東側が通学路、西側が休耕田だが、かなり草が伸びてしまっていて見通しが悪くなっている。持ち主が刈ってくれたが束ねてくれなかったので、春一番のすごい風で刈った草が全部側溝に落ち詰まって大変だった。近所の皆で協力して片付けをした。
 - 市では、持ち主に連絡することはできるが、刈ることはできないはず。
 - 側溝のつまりは道路課に言えば対応してくれるはず。
- 民生委員をやっているが要避難者リストに登録している人の中には、なんかあれば市が車で来て運んでくれると誤解している人がいる。お迎えの車は来ないということをやんわり知らせている。施設に入ったり亡くなったりしても家族が登録削除の手続きをしてくれない。
- 共助の考えとしては一緒に避難所に行こうと思う人は頭にあるが、ブロックに一人はリーダーがいるといいなと思う。実際に避難訓練するとか、行動に起こすことが難しい。防災訓練はひな形が決まっているので簡単。実際の災害時に高齢者を避難所にどうやって運ぶか、ということも考えていく必要があると思う。歩いてどのくらいかかるか？歩いていけるのか？新木小学校が避難場所指定されていることを知っているのか？

5. まとめ

<地域会議事務局長>

災害、防災については、掘れば掘るほど深い。皆さんには身近になってもらいたいと思います。次回6月23日6回目を予定していますが、再度共助について深掘し、防災に関する意見交換をしていきたいと思います。

今回は市長に来ていただきましたが、春と秋に市長懇談会があるので、今日市長に意見を言えなかった方は、その機会に参加してお話してみたらいかがと思います。皆さんの意見を市に伝えていくということが大事だと思います。

本日はありがとうございました。